

令和5年度第1回 那珂市自転車活用推進協議会 会議録

1 日時 令和6年2月21日(水)午後2時～午後4時10分

2 場所 那珂市役所4階庁議室

3 出席者

(1)委員

①直接参加

平田 輝満 委員(茨城大学大学院 理工学研究科 都市システム工学領域 教授)

絹代 委員(サイクルライフナビゲーター)

東ヶ崎 利信 委員(いばらきサイクリング協会 理事)

峯岸 行生 委員(グリーンサイクル・さいと 代表)

原口 一英 委員(那珂市商工会青年部長)

堀田 俊和 委員(住民代表(市内在住サイクリスト))

石原 均 委員(茨城県県民生活環境部 スポーツ推進課長)

橋本 則保 委員(茨城県土木部道路維持課 道路保全強化推進室長)

(代理出席:小島 謙一 様(茨城県土木部道路維持課 道路保全強化推進室 技佐))

菊池 直紀 委員(茨城県那珂警察署交通課長)

②WEB参加

照沼 和之 委員(茨城県常陸大宮土木事務所 道路管理課長)

(2)幹事

企画部長 渡邊 莊一

市民生活部長 平野 敦史

保健福祉部長 生田目 奈若子

産業部長 浅野 和好

建設部長 今瀬 博之

教育部長 小橋 聡子

(3)事務局

政策企画課:課長 篠原 広明、課長補佐(総括) 宇佐美 智也

課長補佐(政策企画グループ長) 郡司 智弘、係長 坪 義彦

(4)その他

那珂市長 先崎 光

4 欠席者

國井 元耶 委員(木内酒造株式会社)

5 会議内容

(1)開会

○事務局(郡司課長補佐(政策企画グループ長))

本日はお忙しい中、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

定刻となりましたので、ただ今から、令和5年度第1回那珂市自転車活用推進協議会を開会いたします。

私は、本日の進行を務めさせていただきます。那珂市政策企画課政策企画グループの郡司と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の協議会への参加については、この会場にご出席いただいている皆様のほか、照沼委員につきましては、オンラインでご参加いただいております。

また、橋本委員につきましては、本日所用により出席できないため、代理として茨城県道路維持課道路保全強化推進室 小島技佐にご参加いただいております。よろしくお願いいたします。

なお、國井委員につきましては、本日所用により欠席とのご連絡をいただいておりますので、併せてお知らせいたします。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

まず始めに、那珂市 先崎市長よりごあいさつを申し上げます。

(2)挨拶

○先崎市長

皆さん、こんにちは。那珂市長の先崎光でございます。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。

さて、本市では、令和2年9月に策定しました、「那珂市自転車活用推進計画」に基づき、基本理念である「市民が自転車をたのしみ、サイクリストを迎える“ハートのまち”」の実現に向け、自転車にやさしい空間づくりや、交通安全意識の向上に向けた情報発信、そして、自転車を軸とした地域の活性化に取り組んでいるところです。今年度は、令和5年9月に包括連携協定を締結しましたJR水戸支社と連携しまして、初めての期間型イベント、デジタルスタンプラリー「駅からサイクリング」を開催しました。また、なかひまわりフェスティバルでは、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社様や那珂警察署様と連携して、VR技術を利用した自転車の危険運転の体験や、自転車シミュレーターを活用した交通安全教室など、自転車安全運転啓発イベントを初めて開催しました。さらに、例年開催しているハーフセンチュリーいばらきサイクリング大会では、市内外から多くのサイクリストに参加いただき、私も毎年走らせてもらっているのですが、秋の那珂市をサイクリングで満喫させていただきました。

このような取り組みをとおして、交流人口を増加させ地域活性化につなげるとともに、自転車で事故に遭わないように交通安全への意識を高めながら自転車の利活用を推進していきたいと考えております。その他、自転車を快適に利用できる環境づくりの一環として、矢羽根の設置やサイクルサポートステーションの整備についても引き続き実施をしているところです。茨城県もこの自転車政策、力を入れていまして、先般国交省あるいは総務省等に次年度の色々な要望で行きましたら、総務省の財政課長さんが土浦に泊まったりりんりんロード走っていますよと言われてまして、私の名刺にヘルメット姿の写真を使っているものですから、市長さんも走るのですかと言われてまして、色んなところで文化が広まっているし、茨城県が目ざされているのはありがたいなと思って歩いて参りました。本日もご意見を頂いて、本市の自転車推進計画がさらに進みますようご協力お願いしたいと思います。最後になりますが、本日事務局より本年度の施策の実施状況等の報告をさせていただきます。委員の皆様には、これからも色々な立場で忌たんのないご意見を賜ればと思います。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(3)委員紹介

○事務局(郡司課長補佐(政策企画グループ長))

ありがとうございました。続きまして、平田会長よりご挨拶をお願いします。

○平田会長

皆様改めまして茨城大学の平田と申します。こんにちは、よろしくお願いいたします。私も三年目、令和2年の策定の時から関わらせていただいておりますが、市長さんおっしゃるとおり、茨城と言えば自転車、自転車と言えば茨城という雰囲気が全国的にも国交省の中でもできてきているという印象があります。実際そうなのだと思います。交流人口や観光面ではかなり成功しているのかなと思います。ただ一方で観光やサイクルツーリズムとか交流人口以外にも、地場の市民の皆様の一交通手段としての自転車のあり方とか、利用促進、環境面、健康面もそうですけど、こういったところについてはまだ課題もあると思います。初めの2年間で矢羽根の整備はすごい加速で那珂市さんは整備されていてすごいなと思ったのですが、一般的に3年目が難しく、停滞するか継続して伸びるかの瀬戸際かなと思っています。那珂市さんは継続的にやっていける体制にあると思いますし、実際やっていると思いますので、ぜひ頑張ってくださいたいです。大きな市とは言えないですけども、自転車政策では茨城

県の中でリードしている市の一つだと思いますので、他の市町村、県に負けずに日常の市民の使い方も含めて、新しい策も含めてやっていただきたいなと思います。茨城県さんの方でも、ちょっと遅れましたけど第二次基本計画も作っていて、個人的にはまだ課題があるしもっと書き込んでほしかったことは山ほどありますが、市町村の自転車計画とかネットワーク計画の面でいくと、やっぱり市で位置付けられているネットワークの中に県道も主要な地区で入っていますよね。県さんの立場も分かりますが、そこはうまく市のネットワークの整備と進捗管理がまだ第1期目でとりあえず作ったという段階なので、2期目3期目にいくにあたってもう一度アップデートしながらお互いに良い形で整備が進んでいくといいなと思います。ソフトは完全にうまくいっているのに、ハード面も含めてやって、モデルケースをぜひ那珂市で作っていただきたいなと個人的に思っています。長くなりましたけど、絹代さん久しぶりに来ていただいて心強いので、思う存分話していただきたいなと思います。よろしくお願いします。

○事務局(郡司課長補佐(政策企画グループ長))

ありがとうございました。

続きまして、「次第の3 委員紹介」でございます。今年度人事異動によりまして、変更となった委員の方もいらっしゃいますので、改めて委員の方々のご紹介をさせていただきたいと存じます。大変恐縮ではございますが、お手元委員名簿の順で自己紹介の形をお願いしたいと存じます。それでは平田会長よりよろしくお願いします。

<委員自己紹介>

○事務局(郡司課長補佐(政策企画グループ長))

皆様、ありがとうございました。

続きまして、当協議会の「幹事」及び「事務局職員」の紹介をさせていただきます。

<幹事、事務局自己紹介>

(4)協議事項

○事務局(郡司課長補佐(政策企画グループ長))

続きまして、「次第4 協議事項」に入ります。この後の議事進行につきましては協議会設置要項第5条第1項の規定によりまして、会長が会議の議長となりますので、平田会長に議事の進行をお願いいたします。

○平田会長

はい。承知しました。「次第4 協議事項」ということで一年間の施策の実施報告及び今後の取組ということでまとめてご報告いただければと思います。よろしくお願いします。

○事務局より資料説明

・施策の実績報告及び今後の取組について【資料1】【資料2】【参考資料】

<協議>

○平田会長

ありがとうございます。時間があまりないので、効率よくいきたいと思います。どちらからでも結構ですし、簡単な質問でもいいですし、今後に向けてご提案とかご意見でも結構ですのでよろしくお願いします。

○事務局(郡司課長補佐(政策企画グループ長))

ご意見いただく前に一つ訂正させていただきます。資料1の5ページになります。サイクルサポートステーションの確保の中で、14 美喰館さん、令和3年度に登録いただいた店舗ですが、12月をもって閉店ということが分かりましたので、年度末であれば1か所減ってしまい、31か所となります。よろしく

お願いします。

○平田会長

また復活を祈って、それでは意見交換に移りたいと思います。住民代表の堀田さん、自己紹介でも問題提起いただきましたが、もし何かあれば。

○堀田委員

資料としては大変一連としてまとまっているものだと思います。また内容的にも安心できる内容です。私の活動柄、自転車教室の資料を見ましたが、市内小学校中学校の那珂警察署協力のもと行われているものなのですが、就学前の幼稚園生に対しての教育の計画はないのでしょうか。これがまず1点です。それとあとちゃんとした説明をもう一回していただきたいのですが、歩道の使用で何歳から何歳までが歩道を使っていいですよ、ママチャリが走っていいですよ、何歳からが車道順走ですよというのをもう一度確認させてもらっていいですか。その2点お願いします。

○平田会長

後ろのルールの方は、道路交通法上ということですよ。

○菊池委員

いわゆる歩道に標識があるところは自転車で当然走れますが、中学生以上の方は基本的に歩道走ってはいけないという事で道路交通法上はなっています。

○絹代委員

改めて補完しますと、13歳未満に関しては歩道通行です。走行は何人たりとも許されていないくて、通行のみです。車道寄りを徐行でという形になっていて、また70歳以上に関しては、歩道上を通行していい。この辺りがサイクリストでもかなり危ういところでして、70歳以上に関しては通行していい、そして青い自転車通行可があった場合にはお母さんが乗っていい。という事なので、お母さんと子供が歩道上を並走するという事も道路交通法上は一般歩道では許されておらず、あくまで通行という形になりますので、保護者に関しても車道にいかなくてははいけない。車道と歩道の並走もダメというところもあります。横浜市の資料だと車道と歩道で並ぶのもダメとなっています。

○堀田委員

あと一点ですが、70歳以上の人が歩道を走ってよく言いますよね。おじいさんおばあさんはあまり自転車で走っていない。この間も聞いたのですが、乗らないからよく分からないと農家のおじいさんおばあさん言っていました。『俺の家の周りは歩道がないから自転車はどこ走っても構わない』という感じで言っていました。それだめだよと話したら分かってくれました。先ほどから話が出ていますが、ちょっとした啓発ですね。それと、普通自転車なら歩道いいですよ、普通自転車じゃない人は歩道走っちゃだめですよ、という言い方もありますよね。普通自転車の定義というのもあってそれ皆さん分からない。我々が乗っている自転車は普通自転車ではないですから、当然歩道は走りません。マウンテンもそうだしママチャリもそうですね。3人乗りのママチャリ、1900以上あります。長さがあってたりして、そういったものもでていきますね。あとはeアシストバイクなんかも大きい物で。

○平田会長

そのへんは普通自転車かと思いましたが。

○堀田委員

長さとかそういったものがあります。

○平田会長

なるほどね。正確なものは追って確認していただければと思いますけども、確かに自転車の種類もルールをちゃんと見れば区別できるかもしれないけど、一般の人がどこまで正確に知っているかはなかなか。

○堀田委員

それは全て来ていただいたご父兄の方に説明させていただいて、資料も渡して、これから使ってくださいという事で言うてはいます。こういったことは学校でもどこでも教えてくれないというのが大分でした。

○平田会長

分かりました。中身の詳細についてはいろいろ議論あるかもしれませんが、コンテンツも大変重要なので、それは県でも議論していましたけども、そのあたりは必要に応じてまたご意見頂ければと思います。また1つ目の幼稚園保育園の教育というのはいかがでしょうか。

○事務局(坏係長)

自転車に特化しているわけではないですけども、公立の幼稚園と保育所に確認しますと毎年歩道の歩き方であったりというのを行事として行っていると確認は取れています。

○平田会長

自転車というよりは交通安全ですね。ご質問で幼稚園生はどうですかと言ったその趣旨というのは何ですか。

○堀田委員

これまでご父兄の方から、小学校に上がる前に通学路の学校への通り方もあるけども、幼稚園で自転車乗っている子はたくさんいて、小学校に上がったからまだ危ないから自転車乗るなど言われたという、そういう雰囲気があるみたいです。その辺先生どうなのですか、と言われて、その辺は自由に乗っていいのではないですかという話をしました。

○平田会長

僕もいろんなところで聞きますね。親の気持ちからいくと危ないから乗るな、と言いたくなる気持ちも分かるけど、そういう環境を作らないといけないというのが、まず重要ですね。ありがとうございます。今のものに関連してでも、どなたでも。

○絹代委員

国の活用推進計画の中にも、未就学児は親と一緒に交通安全教育を是非してほしいという形になっておりまして、今全国の自治体さんで親御さんと一緒に交通ルールを聞くというような流れを推奨する形になっています。今警察庁と話しをしているのは、今後青切符に向けて動きが始まっていきますけども、青切符というのがメインのものではなくて、青切符のようなものをやるのであればルールが分かりやすく守れるものになっていくこと。プラス全国民が守れるルールとして周知している、という状況を見させなくてはいけないということになりまして、来年度から協議会のような形を作り、自転車教室のガイドライン作りを始めることになりました。というのも全国で自転車教室が開催されているのですが、そのクオリティに差がありまして、しっかりとビジョンを持って、受けている方々に何を習得してもらって何を持って帰ってもらいたいのかというのがあやふやで、効果測定がされていなく、間違っただけの切り口で展開されている教室もあるのを確認しています。そこで今後は世代別、内容また頻度も含めて警察庁とその協議会の委員から、ガイドラインや推奨する形ができて、またそのガイドラインを満たした自転車教室を認定していく。効果測定が済んでいて、ちゃんとした内容を伝えられる教室を認定して、そこにご依頼を頂くような形に変えていこうという事で動いています。今堀田さんから話がありましたが、教えるべきルール、個人的にはですね子供二人乗せる自転車が190を超えて開発されているとは思わないので詳細を確認していますが、普通自転車は幅が60なので、マウンテンバイクのようなハンドルが長いものに関してはそこを出てしまいます。普通自転車を出たものは歩道上を通行してはいけない形になってくるのですが、普通自転車というカテゴリー自体がちょっと意味がないのではないかという議論も生まれております。今後特にシニアの方に向けた安定感のある自転車型の乗り物も出てくると思いますし、一般的に今の世の中に合った、障害のある方の自転車に少し幅があるとか、いろいろありますので、そういったところに合わせてくるのかなと。那珂市におきましてはい

ろいろな自転車教室をトライしていらっしゃるということですので、ぜひ今後ガイドラインもでてきますが、優良地域としてそういった協議会ともコンタクトを取りながら、より目標に合ったものをしっかりと、特に茨城県はモデル地区になり得るところがたくさんあると考えておりますので、そういったところできちんと効果が出るものを行っている街という形になってもらえたらいいなと考えています。

○平田会長

先ほどの資料でも新しい技術を使いながらいろいろやっけてらして、そこにさらに質、今の国の動きを、近日中にできたら一番いいですね。ありがとうございます。事務局から何かありますか。

○小橋教育部長

今絹代委員から、保護者も一緒にという話しがありました。那珂市の小学校で1年生に上がった時に交通ルールの一番大事な時なので、保護者に来てもらって一緒に交通ルールを学ぶという教室をやっています。先ほど堀田委員からありました、幼児それから小学1年生の自転車というのがありましたけど、那珂市の公立幼稚園は1園ありますが、幼稚園の段階ではまだ自転車に乗る教育はしていません。あくまでもルールを学ぶ横断歩道の渡り方歩き方を中心にやっています。小学校に上がってから、校庭などを使って自転車に乗る練習などもしています。その際には、事務局が用意した資料の中にもありましたけども、講師として警察署の方に来ていただいたり、交通安全推進委員さんに来ていただいたりということで知見がある方に来ていただいて、学校の先生ではなく専門の方に教えていただいているという状況です。

○平田会長

県の方ではライフステージに合わせて教育作りましようというのを第1次の時はやっていたのですが、そこはまだですかね。あの辺どうなったのかなと、ふと思ったのですが事務局さんご存じですか。今絹代さんからもあった通り、年代とか対象によって変えていかないといけないですよ。当時もそういう議論はしていました。

○絹代委員

私が強く要望しているのは、日本はちょっと遅くて13歳から車道におりるかたちになります。なので、12歳までに基本的なルールが理解できている、という状況をまず一番目の目標として設定してください。そうするとみんながルールを分かった上で車道にでていきますの、その人たちが将来ドライバーになってもシェアできるような形になってくるかなというところです。今後年齢に合わせたガイドラインが令和8年度までにしっかりと出てくると思います。

○平田会長

ありがとうございます。他はいかがでしょう。

○東ヶ崎委員

先ほどから出ている子ども自転車教室ですが、自分が通勤とかで見ている段階では、小学生あたりは守っている子が結構多いのですが、年代が上がってきて、中学生高校生になると逆走したり信号無視したりというのは結構頻繁に見られます。小学生で教育を終わりにするのではなくて、次の段階の中学生高校生に対してどういう教育をしていくのが大事になってきているのかなと自分はみえています。

○平田会長

そうですね。意外と教育を受けたお子さんの方が守っているというのが、なんだかなと。あれはどうしたらいいのでしょうか。そういう年代なのか。

○絹代委員

一点いいですか。例えばですね、私が今まで自転車教室や、そういった啓発をやってきて思うのは、皆さん理由が分かると従ってくださいます。右側通行してくるとひかれやすくなるとか、ライトを点けないと自分の目の前が見えないのではなくて、自分が見えなくなるから自分の身を守るためにライトを点けるのですよ、と言うと腑に落ちる。あとお子さんにどうして自転車に乗るときヘルメットが必要な

か。例えば、子供を背に乗せて、親は前が見えるので危険回避できても、子供は見えていないので100%危険回避できず、シートベルトがないと飛んで行って頭が重いので頭から落ちます。幼児同乗の自転車でも子供はヘルメットを被らないといけないのです、というのをしっかり伝えると100%の親御さんが理解されてヘルメットを買います。やはりルールというのは、なんでそれをやらしてもらわないといけないのかというのが分かることがまず一つ。あと4ページに自転車を安全快適に乗るためにというチラシを載せていただいている、真面目だなと思ったのですが、気の重い方向でまとまっている気がして、ヘルメットを被ることに努めなければいけないというのはもちろんのこと、努めなくてはいけません、とどんどん気が重くなってくる書きぶりです。これをもう少し、広報するときに伝わりやすい書き方で、なんで危ないのか、どうしていると守れるのか。矢羽根型路面表示も、関心がある方以外はちょっと目にしにくくなっていたり。前も確かこの話があったと思いますが、サイクリストが安心して走るという、ロードバイクに乗ったあの人たちの為のものね、となりがちなと思います。みんなが道路を一緒に守って、住みやすい街にするために自転車用のマークができていて、ここを自転車が走るから車運転する人は気を付けてねという書きぶりとはちょっと印象が違うかなと思っていて、内容は一緒なのですが、ルールとは伝え方。受け取り手がそれほど関心ないときにはそこが重要になってきますので、そこをもう少し柔らかく砕けてくれたらいいのかなと思います。あと思いやり1.5m運動もすごいと思ったのですが、自治体によっては1.5mと書くとみんな嫌がるので、書かない自治体さんとかいらっしやる所を、しっかり1.5m追い抜きをしてくださいねとやっていると、市長も加わって広報活動されているような写真もありました。那珂市さんは、本当にしっかりと広報活動をされていると思いますので、日本の中でも先進だと胸を張っていただいていると思います。

○平田会長

ありがとうございます。この1.5もやっていただいて頭が下がる思いで、市長さん、リーダーが率先してやっていただけるというのは一番効果があり、ありがたいなと思いながら、那珂市民ではないですが、代表してありがとうございますと申し上げます。多くの人に伝えるというのはどういうツールを使ったらいいかわからないし、さっきのVRでもお子さんに無灯火だとどれくらい危ないかと、車の視点で無灯火の自転車の写真見せて、見えないから危ないなというのをバーチャルでやっているのですよね。そういうこと非常に工夫されているので、その先に新しい、より多くの人にリスク認知の方法っていうあるのでしょうか。他はいかがでしょうか。石原さんお願いします。

○石原委員

自転車シミュレーターを使ったというお話もありましたけども、これはLuckyFM公園に常設はされているのですか。

○菊池委員

これは県警本部に置いてある機材でして、これ1機しかありませんので、けっこう人気がありまして、なかなか那珂の方にも言っても回ってこない状態です。県警の方から持ってきてもらって、一緒になって指導している状態ですので、結構人気があって県内で使用していますので早めに言わないと予約が取れないという状態になっています。VR自体は警察庁で作っているものになりますので、県警としてではなくて全国に配備されているもので茨城県警には現在1台しかないような状態になっています。

○事務局(郡司課長補佐(政策企画グループ長))

資料1の9ページの一番下の写真になります。一番下右側ですね。警察の方いらっしやって、前で子供が自転車に乗っています。その前にモニターが3台、後方確認用で後ろ側に1台モニターがあるというのが1セットで1台のシミュレーター。こちらを警察の方にお願ひして当日持ってきていただいて、体験をしていただくというのがシミュレーターの方。左側の机に座ってメガネの様なものをかけているのがVR体験になります。こちらはニッセイ同和損保さんで、ゴーグルをかけて中で自転車に乗っている動画、無灯火と灯火の比較体験をしてみようというのを2種類やらせてもらったということになります。

○石原委員

もう1点ですね、計画目標の達成状況の目標2ですが、去年も話題でたかと思うのですが、これは市民アンケートをされて、その結果でだされていると。この聞き方というのは自動車をやめて自転車に

するという目標設定という理解でよろしいですか。

○事務局(係長)

質問の内容としましては、日常における主な交通手段は何ですか、という聞き方をしています、3つまで回答できるという設定でアンケートとってまして、その中で自転車が選ばれている件数の割合が今回だと12%という形になっています。

○石原委員

正直感覚的に言うとハードルが高いというか、車よりも自転車を使うという人を一気に増やすというのはなかなか大変だったりするかなと。あと、もしかしたら週に1回とか月に1回なら自転車楽しむよという人を増やしていくというのも、段階的なところとしては自転車の普及、自転車に親しむという意味ではもうワンクッションあってもいいのかなと感じたものですから、アンケートの取り方とか、目標自体は11年までにとやっぺららっしゃるので、その前の段階として週に1回、月に1回は乗ってもいいかなとか乗っているよという人が増えていくのも目指されると、段々につながっていくのかなと思いますので、その辺もしやり方があるのであれば相談を。我々もサイクルツーリズムで来ていただくのもそうですが、やはり地元の方が乗っている地域というのが、実際に来ていただく上でも大事なことだというのは肌感覚で実感している所ありますので、それを那珂市さんの方でチャレンジしていただけると、我々としても自転車を愛する街にどうぞお越しくささいというような引っ張り方ができるかなと思って期待している部分がありますので、一緒に検討させていただければなと思います。よろしくお願いします。

○事務局(係長)

ありがとうございます。目標設定はこの形のまま11年までいこうとは思っているのですが、市民アンケートの中にどれくらい自転車を利用していますかという設問は設定しています。今回の資料には出てきていないのですが、二段階での目標の確認じゃないですけど、そういった形で今後は数字として把握していけたらと思います。

○平田会長

目標には、週に1回でも使っていればこの%に入っているのですね。

○事務局(係長)

そのとおりですが、『主に』の受け取り方によるので、個人差はあると思います。

○平田会長

統計の継続性で変えられないというジレンマがありますが、できない数字だと意味ないから。数字を出さない理由は何かありますか。

○事務局(係長)

理由は特になく、目標として設定している指標がそこだったので。

○平田会長

利用回数的にはどんな評価をされているのですか。今でなければまた分かり次第で。無理やりでもいいから日常に繋がってなければいけないし、それを発信してくださいと言ったのですが、その趣旨はおっしゃる通りで、まずそっちで引き付けておいて、まだ使っていない人が自転車使って、日常でも使っているというストーリーは十分あり得ますものね。地元の人が使っているということはそういう環境があるということで外からも来るし、好循環が生まれると思う。その先に茨城は極めて高い目標に近づいていかななくてはならない。ただ30年後と言ったときに、脱車が出来ていないとその都市はもう死んでいます、この世界の流れから言うと。カーボンニュートラルってもうすぐですからね。

○事務局(係長)

先ほどの利用回数についての評価ですが、約17.2%。これが月1回以上自転車乗っている方です。

○絹代委員

「計画策定時は19.5%だったのが12%になった」。「同じ聞き方で減った」ということから私はちょっと方向を考えた方がいいのかなと思ったところです。まず、「那珂すごいぞ」シリーズですけど、ドライバーさんへの広報というのが本当に死活問題で、やはり車を運転されている方に自転車の存在を理解し、リスペクトしていただかないと事故は減りません。そういった動きに市長自らが加わって行われていることが本当に素晴らしいなど。割と「自動車のドライバーに対する啓発やります」と言いながら、なかなかやってくれない自治体さんが実際は多い中で、那珂市は本当に素晴らしいなと思いました。それと目標値の中で自転車関連交通事故発生件数の目標が0件になっています。これは国の会議でも何回も話題になってきたところで、国の交通事故死亡が2,000人だったか200人、結構高い人数が目標なのです。どの自治体もゼロというのを描けない状況の中で、ゼロと書いてあるのを見て非常に感銘を受けました。本当にしっかりと目標を掲げて、達成されないかもしれないけども、まずそこに向かおうとされている姿勢に本当に素晴らしいなという風に思いました。その中でじゃあその目標を達成していくために何をどう変えていったらいいのかなと思いましたが、まずは事故のこれまでの状況をまとめられたものを見ると単路部で順走でも事故に合われているという事は、ドライバーさんの運転であつたり、自転車側が認知されにくい恰好をしているとか、そういった解決できる問題点があるのかなと思いました。交差点の事故が通常は多いのですが、交差点内で歩道逆走というのは歩道から出てきた方が横断歩道のない交差点で事故に合っているケースが一番多いという事なのかなと思うのですけれども、ちょっとこのあたりも何が原因で事故が起きているのかを分析する必要があるかなと思いました。その中でまずはドライバーさんに自転車が出てくる可能性をしっかりと踏まえて走っていただけるように広報していったり、気づいてもらうような事、ライトを点けて自転車に乗ってもらうとか。夜の時間帯16時、17時、18時と薄暮といわれる一番見えにくいと言われている時間帯ですが、この時間帯の事故を減らすような努力をしていったらいいのかなというところ。ちょっとこの事故の起き方が特殊だなと思いましたので、そのあたりもちょっと分析をしながら対策をしていただいたらいいかなと思います。プラスかつて19.5%だったものが同じ聞き方で12%になっている理由は何かなと思ひ、危ないという風に感じたのか、コロナ禍が明けてきて割と世の中がじゃあ自転車という流れだったのが、また他の物に戻ってきているのかなと。ただガソリンも高い実情もありますし、やはり自転車に乗っていただくための広報に力を入れていただいたらいいのかなと感じた次第です。例えばこの中で、これから自転車の健康関係に関して、健康効果や楽しみ方等の情報発信と書かれているのですが、具体的にどんなツールを使って、どんなことをされようとしているのかなと。今のこの元気アップ！りいばらきと大塚製薬さんのものは、特に自転車に乗ると良い体になるよとか、人間は誰も老いていって体が衰えていきますけども、自転車に乗っているとそれが食い止められるよ、みたいな具体的な発信ではないと思います。自転車を使っているとどんな良いことが起きるかというのを、しっかりと伝わるツールで出す見込みがあるのか聞きたいなと思ったのと、あともう一つすごいぞ那珂市シリーズにヘルメットの購入補助というのがあって、これは本当に素晴らしいなと思いました。ヘルメットのイラストがあまり世の中で好かれていないツルツル系のヘルメットだったのが気になりまして、フリーのイラストを持ってこられただけかなと思いますが、やっぱり快適に皆さんに乗ってもらう、自転車に良いイメージを持ってもらうというのがすごく重要で、子どもの頃に被っていた空気穴がないヘルメットに悪い思い出があるがために、大人になった時にヘルメットを拒絶するというのが日本中でかなり問題になっています。なのでヘルメット購入補助の時に、子供たちがこれだったら被りたいと思うヘルメットを推奨するような形で展開されているのか、この2点を教えていただけたらいいなと思います。

○小橋教育部長

最後の質問の方からです。教育部です。那珂市では小学生も含めてみんなに被ってもらうという事でやっています。デザイン上のことですが、今小学校中学校で子供たちに配布しているヘルメットは保護者が安全性を重視して選んだものになっています。通気のことでも考慮したものになっていると思いますが、穴があるかどうかは、穴がなかった様な気がします。言い訳にもなってしまいますが、安全性を第一に考えてということをやっています。これは市役所の方で消耗品として購入をしているのですが、希望制です。小学生は特に徒歩なので義務ではないので、希望をとって買うというご家庭には補助金をだして配布しているというかたちです。好きなヘルメットをもちろん被ってもいいです。中学校は無償配布という事なので、生徒分は購入して配ります。ただ自分の好きなものを被っても大丈

夫です。物は強制ではないです。

○絹代委員

ありがとうございます。それで今すごく感じたのは、もし自転車に乗られる方を増やしたい、好んでヘルメットを被ってくださる優良な自転車に乗る方を増やしたいのであれば、自転車イメージアップ作戦。自転車に乗るとこんなにかっこよくて楽しいよと考えてもらえるものを描いて展開されたいのかなと。おそらくお子さん用の日本全国被られている空気穴がないものが本当に安全かどうかというと、答えはノーですね。あれは自転車用に作られていませんので、自転車用の空気穴があるものは、倒れた時にヘルメットが代わりに割れて、その人の頭を守ってくれます。なので、自転車に乗る時には安全性が非常に高いものになります。また空気穴があるので夏の暑い時期でも快適です。そういう情報をご存じないと思われる親御さんが多いので、おそらく安全だと思ってさほど安全ではなく快適性が低い物を買っている可能性があります。せっかくここまでいろいろな情報発信をされているのであれば、ぜひいい情報を発信していただいて、大人になったら二度と乗らないとなるのではなくて、みんなが楽しく見た目も気にしながら乗れるようにされたいのかなと思いました。ぜひ自転車イメージアップ作戦をみんなでやりましょう。みんな協力します。

○先崎市長

今の子供たちのヘルメットは通気性あります。穴ちゃんとあります。私が市議会議員時代に子供たちにヘルメットを被ってもらおうという事で、推進して市から補助を付けてもらうようにしました。ですからヘルメットのことはすごく自分でも重みがあったので、自転車に乗る前からですけど、今の子供たちそういう物を被っています。

○事務局(坏係長)

一つ目の健康面の話ですけども、今年度この資料を作って振り返った時に、やはり健康面に関する取り組みというのは正直力を入れられていなかったというのは反省点で改めて資料を作ったところなんです。何をツールにというのも具体的に浮かんでいないところで、絹代さんとかから少し何かアドバイスのものをいただけるとありがたいなと思いました。

○絹代委員

ありがとうございます。たとえば他の地域さんでやられるのは新聞の地域欄にエッセイみたいなもので、自転車でこんなに健康診断の値が良くなった人がいますよとか、むしろ自転車を車庫から出していくのであれば車発進させるよりも早いことがありますよとか、プラスチックパックを断るより車を自転車に乗り変えて4キロ行った方がよっぽど二酸化炭素削減率が高いです。ぜひ自転車を使うライフスタイルが格好良くっていいよ、プラス自分の体もどんどん良くなる。誰しも定年退職して年金がもらえるようになった時に体が生き生きして、なんでも無理がきいて出来る人生の方がいいですよ。ただ座っていても得られないので、やはり40代50代ぐらいから運動し続けていくことが本当は大切なのです。自転車に乗っていることで糖尿病が悪化することを防げますし、人工透析をされている方のおよそ半分程度が糖尿病を患っているのですが、例えば壮年期に自転車に乗っていたらそこまでの悪化はかなり食い止められるのではないのでしょうか。そういうような具体的な情報も今できていますので、それをメディア使って広めていくとか。皆さん頑張ってください、「サイクリスト、サイクリスト(主体)」になってしまっているのがちょっともったいないかなと。そうすると自分たちの問題じゃないと捉えがちで、本当は街にいる方が自転車を使って生活活動強度が上がって、その分体が良くなって街が安全になっていくよというのが、みんなが描きたかったものだと思いますので、ちょっと一旦「サイクリスト」から外れて、みんなが自転車を楽しんでくれる優良な街、住みやすい街みたいなのに切り替えていただいてもいいのかなと思いました。

○平田会長

ありがとうございます。ぜひ市役所の誰かが実験台になって、不健康そうな人を選んで、乗っていない人が週1回でも2回でもやったら、めちゃくちゃ健康診断良くなったみたいな、そういうリアリティのある数字いいと思います。毎日自転車は厳しいかもしれないけど、週1回ぐらいだったらできるのではないかと思います。そういう地道なところを市役所の方がやって、リアリティの高いインパクトのある情

報とかデータを使って、那珂市すごいなというところを目指していただきたいなと思います。

○事務局(坏係長)

ありがとうございます。参考にさせていただきます。

○小橋教育部長

自転車と健康の話です。私たち教育部で生涯学習課を持っています。スポーツ推進室があって、那珂市スポーツ推進計画、令和3年の3月に作りました。この中では自転車の活用を施策としていっぱい入れ込んでいます。健康を切り口に自転車を活用して健康、それから生涯スポーツに結び付けていくということで基本施策の中の方針にも入れ込んでいます。この辺りは保健福祉部の健康推進の方とも連携してやっているところです。

○平田会長

他にいかがでしょうか。峯岸さんとかどうですか。

○峯岸委員

かなり先の話になってしまうのですが、茨城県さんの方で県の植物園をリニューアルしようという話しが新聞に載っていて、温泉施設を作ったりで、それで思ったのが那珂市さんも上手のっかっちゃって、あの辺りは自転車で走るのに良い道路がいっぱいあるじゃないですか。乗っかっちゃう、そういうのも面白いかなと個人的に思いました。ヘルメットのことは色んな方が色々おっしゃっていたので、ヘルメットを販売している私としては申し上げることはございません。

○平田会長

植物園の何か具体的な情報があれば。

○渡邊企画部長

県の植物園のリニューアル計画がありまして、一応予定では来年の4月にオープンするという計画で進めているところです。それができるかどうかはまだ具体的には分からないですけれども、その中に温泉施設であるとか宿泊できる施設であるとか、マウンテンバイクのコースも作るという事で一応今のところ予定されている。具体的なのはまだ見えてないですけども、そういう予定で進んでいるので、那珂市でもサイクリングコースに組み合わせたりとか、イベントの時にも活用したりとか、あとは県の方にもサイクリング関係でそういう連携ができるかどうかというのを話ししながらやっていければと思います。よろしくお願いします。

○平田会長

ありがとうございます。原口さんどうですか、初めてのご参加で。

○原口委員

自転車の入り口として、ガチのロードバイクですよ。ママチャリあたりでみんな集めて走ってもらった方が入り口でいいのかなと。ロードバイクは高いですよ。だからママチャリ限定での大会とか、年齢別とかの大会とかやったらいいなと思います。あとサイクリング大会の後に参加者等にアンケート等はどうしていますか。反映はされていますか。

○事務局(坏係長)

各イベントでアンケートはとるようにしてしまっていて、今手元に資料がないのですが、どれぐらいの頻度で乗っていますとか、VR体験とかシミュレーターの時にはヘルメット着用について努力義務化になったのは知っていますか等というような、イベントに合ったアンケートはとっています。

○平田会長

ありがとうございます。先崎市長どうぞ。

○先崎市長

一言だけ。本当に皆さんありがとうございました。私も今原口さんからママチャリの話がありましたけども、カチッときめたサイクリストの為の自転車活用計画ではなくて、将来的には日常的に使えるもの、例えば地元の産業の活性化にも普通の自転車屋さんが商売繁盛するみたいなことも大事ですよ。健康づくりも大事ですし、それから高齢化になってきて免許返納。ぎりぎりまで車乗って免許返納したらおしまいパタッとじゃなくて、70になったら自転車勉強しようと。今うちの近所でも90歳ぐらいの方が三輪の自転車をヘルメット被ってかわいく乗っています。やっぱりそういう風になっていくという事が大事だと思います。今交通を役所どうするんだと、バス回せ、タクシー回せとか車を意識しているからそうになってしまうのであって、年齢に合わせて自分の行動半径を15キロにしようとか、半径10キロにしようとかライフスタイルを変えていかないとだめ。全部行政になんでもかんでも車用意しろ、タクシー回せと言うのではだめなのです。そういうのを補完する意味でも、この自転車をもっと身近なものにしていかなくちゃいけないというのが私の考えです。

○平田会長

素晴らしいですね。大賛成ですね。そういうシナリオ描いていくといいですね。

○峯岸委員

ロードバイク乗っている人がガチの人という意見がありました。ロードバイクもあれば、ツーリング車もあるし、マウンテンバイクもあるし、街乗りに適したクロスバイクもあるし、スポーツ車という括りの中でもいろいろな種類があるわけで、それを一般の人に知らせてあげるようなイベントづくりというのを那珂市さんの方でやられたら面白いのではないかなと思いました。その中の一つとして先ほど原口さんがおっしゃっていたママチャリで何かやるとか、とてもいいかなと思いました。

○絹代委員

私も全国で自転車のことに関わっていて、私自身ロードバイクに乗りますが、日常は子供乗せる自転車しか乗っていない状況で、近くに行く時にはママチャリが多いです。車から自転車にシフトすることの良さ、また自転車で行ける所は自転車で行って自分のストレス回避になったり、健康状態の維持に繋がったり、すごくいいなと一人間として感じています。総合的にみんなの意見を聞いていて思ったのが、やっぱり計画がサイクリスト向けに動いてしまっているのかなと。もう少し一般の方が届く情報に切り替えて、例えばどういう事を伝えると皆さん自転車いいなと思ってくれるのか、痩せるとかメンタルにもすごく効くのですが、そういう情報をできればみんなで意見を出し合って、LuckyFMさんでも構いませんし、新聞でも構いませんし、広報誌でも構いませんし、皆さんの目に届くところに出して、プラス自転車に乗るのがすごくいいチョイス、自分の人生をこれから長く楽しめるためのすごく重要なチョイスだよという風に情報発信していったらいいのかなと思いました。無理をして皆さんが行き詰ってしまうことが無いように、効果が出てくるとまたそこも違いますので、ぜひ可能な策を探しながらこれからも続けていっていただけたらと思います。さっきの子供乗せ自転車ですが、ふたご自転車を含めて今販売されている幼児同乗自転車は全て普通自転車です。(全長)178cmとか185cmくらいで作られているので歩道大丈夫です。あと市長またぜひ一緒に走らせてください。ぜひよろしく願いいたします。平田先生も一緒に走りましょう。

○平田会長

WEBの照沼さんと小島さんいかがでしょうか。照沼さん、WEBから全体含めていかがでしょうか。

○照沼委員

今まで皆さんのご意見とか数々のお話を伺っていく中で、私ども道路行政に携わっている者からすれば、車との両立が一番大事と考えております。警察署様の方からもお話しあった様に、交通との安全関係というのも一番大事というのも考えられるのですが、やはり自転車というものについて自動車のドライバーの意識改革も必要ですし、道路管理者としてドライバーが安心安全として走れる道路を私ども作っていかなくちゃならないなど。矢羽根についての認識関係がまだ薄いということが、茨城県として反省しなくてははいけない。今後私どもが考えることにつきましては、自動車と自転車が安全な感覚をもって、それぞれ譲り合いの気持ちを持った形でお互いに安全確認をしながら事故が無いよう

に進めて、自動車も自転車もお互い考えつつ、連携し発展していくために両方とも必要だということで認識を理解していくことが大事なのかなと。それに携わる立場として道路の安全性、舗装が悪いとか草が生えているとかそういうところを目に留めながら、しっかりと維持管理の方を努めて、走りやすい道路環境を作っていくという事も私どもの大事な役目だと思いますので、今後ともこういう協議を大事にして、意見交換しお互いが良くするように意見をまとめられていければと、お互いに認識を高めようというところでございます。

○平田会長

ありがとうございます。最後お待たせしました。閉めてください。

○小島委員

気になった点が2点ございまして、1点目が高齢者のフォローです。私ども、昨年度、高速道路の進入口に逆走する高齢者に対し、どういう知見を持つかということを中心にアンケートを実施しました。

アンケートの対象となった高齢者は、認知症一步手前の方々、いわゆる免許返納しようか迷っている方々です。アンケートの結果、「基本的に知らない知識は分からない」という事が明らかになりました。

必要な対応として、交通規制ですとか、矢羽根についても新しい案内標識が出てきていますので、そういった情報のリバイス、知識のリバイスなんかの教室も高齢者も一緒にやっていただけたらなと思います。

2点目は、先ほどママチャリの話がございましたけれども、千代川村で4時間耐久レースをやる前に千代川村の小学生たちが通学自転車を使って、つくばサーキットのレースをやっていたのを思い出しました。そういったような自転車に親しむ環境を作っていくながら、高齢者への配慮という形でいって、公共交通への転換ですとか、事故のない環境を作っていくのが大事と考えております。

○平田会長

ありがとうございます。そうですね高齢者、しばらくは増えていきますからね。菊池さん何か全体を含めてご意見、アドバイスあれば。

○菊池委員

先ほど小学生の自転車の安全教室の話がでましたが、私もこの3年ぐらい、小学生中学生に対して学校に行って安全教室やっていますが、4年生5年生ほとんど自転車乗れません。幼稚園生とか小学校に入った生徒に対して自転車の安全教室をやっても、数名乗ればいいのかというレベルです。私も幼稚園生の頃から自転車乗っていましたがけれども、今の小学生はほとんど乗る機会が少ないですね。

○堀田委員

今警察の方から話出ましたけれども、まったくそのとおりです。だからこそ小学校入る前にということで、ペダルレスのバイクでやりましょうというのが、全国から来ているアンケートです。お父さんお母さんと一緒に僕は乗りたいというのがそれなのですね。小学4年生5年生その方たちはこれから中学校行ったり高校行ったりして、自分の勉強が大事です、野球が大事です、サッカーが大事です、テニスが大事です、みんなそっちです。自転車じゃないです、アンケートで聞いたらば。一番大事なのは自転車ですか？いや僕はサッカーです。サッカーにはパパが乗せて行ってくれます、ママが乗せて行ってくれます。必要ないのです。ですからそこを引きずり込んでというのが、幼稚園からなのです。10年経つとしっかり中学3年生になりますから。

○平田会長

菊池さんどうですか、続きをどうぞ。

○菊池委員

そうですね。幼稚園生と小学生低学年は横断歩道の渡り方からまずやらないといけないという事がありますので、そういったところが今の段階では、自転車よりも横断歩道の渡り方とかの指導がメインになってくる状況です。あと那珂市内でも自転車の事故が発生していますけど、やはり自転車の方は当然免許がないので、法律を守ろうという意識がないです。信号が赤になっても突っ込んでくると

か、それでぶつかってもそのまま行ってしまう。で、車の方が取り残されているという事が多々ありますので、法律を守るような指導をしていかないと事故は減らないのかなというところがあります。

○平田会長

青切符が入ってくるタイミングでもあるので、いいタイミングだと思います。ベース是那珂市さんあるので、前向きに取り組んでやっていただく必要があるのと、自転車に乗れない子、幼少時代から乗ったことがない子が増えてきている現状をどう捉えるかですね。他大丈夫ですか。

○東ヶ崎委員

6ページのサイクルトレインの件で、文章だけでJRさんとのデータがないので分からないのですが、一日当たりどれくらいの利用者があったのかお聞きしたい。将来JRさんがこのサイクルトレインに対してどのような方向づけで考えているのか知りたいと思います。

○事務局(坏係長)

実績の方はこちらでも把握したかったのですが、JRの方に問い合わせたのですが、公表できる数値はありませんということで、教えていただけなかったというのが現状です。

○東ヶ崎委員

サイクルトレイン今のところ予約制で実施されているのですが、自分なんかはサイクルトレインやる前に輪行袋であちこち歩きましたが、将来的にはそのまま行ってそのままの状態に乗れば、もっと気楽にできる方向性でいいのかなと。例えばここから水郡線に乗って自転車で水戸まで行って、水戸で買い物するという事もできるかなと思うので、何年先になるかは分からないけども、そういう方向性でJRが考えているのかどうかというのが。

○平田会長

そうですね。それはちょっと分からないですね。何か情報有りますか。

○石原委員

今水郡線サイクルトレイン、県内、全国でも毎週やってくれるというのはまずないです。かなりこの地域にとって誇るべきものになりうるところだと思います。ここにも記載されていますが、前は上菅谷駅と大宮と太田と大子辺りでしたけども、これが各駅で乗り降りできるようになって、かなりサービスが進んだ状態ですので、ぜひたくさんの人に乘っていただいて、JRとしてもこれ売れているなという感覚を持ってもらうことが次のステップに行くことだと思うので、関係する地域の皆さんが自分で乗ってもいいし、PRしてもいいですし、とにかく毎週毎週この予約がしっかりといっぱいになる利用を示していくことが、JRに対して次のサービスを前向きに考えてもらうための方法になると思います。県としてもこのサイクルトレイン、言葉では分かるのですが、じゃあどこでどうやって乗って、どんな風なのかというのがイメージしやすいように、実際に職員に乗らせて、写真を撮りながらここでこういう風に乗りますとか、自転車の恰好をして乗らせて、それをPR素材として使い始めているところです。那珂市さんも上菅谷駅は最初の起点なので、そこからどんどん利用してくださいというところで一緒にPRさせていただければいいなと思いますし、あらゆる方々にまず毎週利用していただくということで、一緒にPRできたらなと私どもとしても思っております。よろしく願いいたします。

○平田会長

県さんとタッグを組んでいろいろやられているのですね。常磐線も上野から土浦とか予約制になったり、広まっていますよね。予約システムだから使わないというのであれば少し考えなくてはいけないけど、まずは使っている姿をぜひ使いましょう。那珂市さんも使って拡大して。他にあればまた委員会後でも那珂市さんに伝えていただいてより良い計画実行に移していただければと思います。最後事務局さんにお返ししますので、残りのその他についてお願いします。

(5)その他

○事務局(郡司課長補佐(政策企画グループ長))

平田会長、長時間にわたり、スムーズな進行をご審議いただき、誠にありがとうございました。また、皆様から貴重なご意見をたくさんいただきまして、今後の事業の参考とさせていただきたいと思いません。どうもありがとうございました。この協議会は、那珂市自転車活用推進計画の施策の進行状況において、このように年度末に開催させていただいき、一年間の活動内容をご報告させていただきますのでどうぞよろしく願いいたします。それでは「次第の5 その他」について委員の皆様から個別の事業の案内、連絡事項等ありましたら、この場でご案内いただければと思います。その他なければ、事務局より説明をお願いします。

○事務局(坏係長)

事務局から2点ほど、ご相談を込めてのお話しになります。まず1点目が委員改選についてになります。委員の皆様におかれましては、今の委嘱期間が今年4月30日で満了となります。今後も計画の進行管理をしていく上で、専門的な知見からアドバイスをいただきたいと考えております。つきましては令和6年5月以降の2年間も引き続き委員として委嘱させていただきたいと考えております。改めてご案内の方は差し上げたいと思いますので、ご検討のほどよろしく願いいたします。2点目が、協議事項の中でもご報告させていただきましたが、来年度のサイクリングイベントのご案内になります。まずJR水戸支社と連携しまして、駅からサイクリングを来年度も開催します。来年度は4月から7月までになりまして、実施したチェックポイントをベースに10か所チェックポイントを設定します。今年度実施したような各店舗の特典は今回ご用意できておりませんが、それぞれチェックポイントをチェックした方につきましては前回同様コシヒカリ4合を送る予定となっております。また第2回目の茨城放送との共催で、いばチャリin那珂を開催いたします。LuckyFM茨城放送の人気パーソナリティーと一緒に自転車で市内約40キロを巡るグルメライドのイベントになります。日時は令和6年5月26日(日曜日)を予定しておりまして、市役所隣の中央公民館が発着地点になります。グルメライドですので、エイドステーションでは那珂市ならではの特産品を参加者におもてなしをする予定です。またパーソナリティーの方が、木内酒造さんの手作りビール工房で事前に仕込んでいただいたオリジナルビールをお土産としてご用意する予定となっております。すべてのイベントに関しまして、多くの方が参加して、より満足していただけるようなイベントになる様進めていきたいと考えております。応募開始はいばチャリは4月1日からになります。市の広報誌、3月11日号に掲載予定です。

(6)閉会

○事務局(郡司課長補佐(政策企画グループ長))

引き続き市でもイベントを開催していきますので、お時間あれば参加いただければと思います。他になければ以上をもちまして、令和5年度第1回那珂市自転車活用推進協議会を終了いたします。皆様、本日は、大変お疲れ様でした。オンラインで参加いただきました照沼委員におかれましては大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

以上